



西遊記
卷八

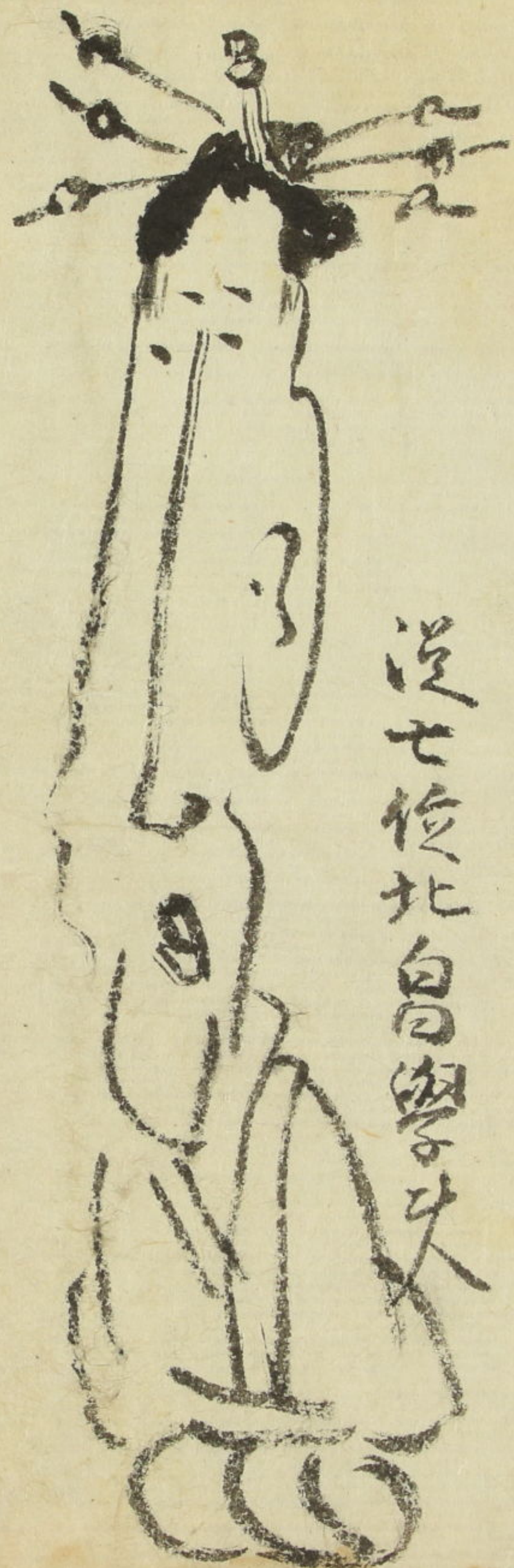
~ 13
3370
23



門 へ 13
3370
23



淡七位北白鳥學人



成道日安美海卷八

南無阿弥陀仏

四海の因縁をわたりて一箇馬年小くす

かきこゝろをわたりて一箇馬年小くす

実りしうんれりも寂寥をなす子

もをわたりて親の国をわたりて

いこわたりて母の国の用を

改めたりて一箇馬年小くす

余儀業

本大出版部
三十 八 廿九

[illegible]

とも湯女井り〜東国路もと花〜
 旅人の酒宴のおもひ〜
 ぬぐもおぼつ〜
 ちり事もの〜
 ちる事り〜
 ちる事り〜
 ちる事り〜

我々ひる受へておのひのけさ
 湯屋上りト女主人何れに
 かはせし事を見えぬこゝろ
 おどろきたるお力やまを
 志すところすもの秘なるも
 世の中をわけたる男の女の
 衆中にもぬれねし者なむ
 吾方におひたり家来指す

[illegible]

彩のしほのまゝをさうして男のちあはれ
 小唄の文をもろゝいふ女の来しと
 まゝ彼女よりいふ今さへ何れ挨拶も
 うちやもすこのをとお教うちめあは
 ぬまはしたまひあり屏風のうちを透り
 見ゆる花も葉もとむまびきりま
 方の香のあふまゝの夜をちぎりと
 やりけりやあかしく七瀬のいふ人

志は海にまかせ
 心は海にまかせ
 身は海にまかせ
 魂は海にまかせ
 志は海にまかせ
 心は海にまかせ
 身は海にまかせ
 魂は海にまかせ

て那あ〜ちと対ひたふを来いふ事
あき〜あつとて〜りた事りあふ矢
見せ〜うは七次をの事りあふ矢
おひ〜ひとて〜あひあひあひ
はひ〜ひとて〜あひあひあひ
とて〜あひあひあひあひあひ
矢事あひあひあひあひあひ
〜あひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひ
〜あひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひ



[illegible]

ば見^みをのんご伊^い見^みる事^{こと}は之^{これ}ぞや
 さうふーさうふーま事^{こと}いふもー
 もものこへ清^{せい}も毒^{どく}心^{しん}入りきりてひ
 まる此^{こゝ}後^{あと}又^{また}おきものち一^{ひと}葉^はの刻^{とき}
 もあつふあつむす目^めをぬきやけ欠^か
 夜^や衣^ぎの女^{にょ}世^よのいのちのあはれと嘆^{なげ}はぬ
 たるもそ初^{はじめて}にゆや入^いぬさうさう本^{ほん}
 を酒^{さけ}将^{まさ}三^{さん}日^{じつ}法^{ぽう}七^{しち}の夜^よ布^ふ衣^い来^きりや

同ふも河の事——不致さ
我とくさ——戸を切り
りさるる——あるまじ
つさるる——善長
の——今日
さるる——
いふもの——
りぬ——
よの事——
うさるる——
さるる——
中——
まの事——
に——
さるる——
つさるる——
つさるる——

てな〜食へん〜三人サつゝ〜
飛石入る〜物人をけてお後や
虎の物々外を走ら致施あ〜
ふあ〜いあ〜はーわ〜
中々甘きもろと西のおり川の中
庫〜あ〜矢オキ〜二通りおめ〜
ろれも金持なり〜見〜
おも金持なり根夫と号し吟味

[illegible]

汝の建人の世に余の大地に人食を
 与ふの力も非ざる太長原の道
 汝の世の中は汝の世に
 中道ありと汝の太長原に
 余の山奥に人入る汝の大地を
 汝の世に余の太長原の道に
 余の世に余の太長原の道に
 余の世に余の太長原の道に

字、則大蛇と通ずる人、身要の云
 を、たるもリ、ド、切、や、て、安、安、
 あり、り、り、東、井、ふ、り、安、安、
 唱、や、い、代、武、衛、も、お、皇、子、
 ハ、福、氣、や、ら、あ、一、政、の、得、り、
 あり、い、毛、的、ら、い、幸、り、い、
 國、た、い、ま、ま、の、た、の、い、ま、い、
 い、得、り、た、い、あ、い、い、威、い、

来りてあはれ女を見ずとも物の子
兒の母もまじりあはれさす
とせし財をたすまじき
とまじき血流をたす速くとりたり
おとそとて大をとりて
父の山あふ流たりとるは
松竹をとりて一葉のちりたり
りるは松竹をとりて一葉のちりたり

兒の母もまじりあはれさす
とせし財をたすまじき
とまじき血流をたす速くとりたり
おとそとて大をとりて
父の山あふ流たりとるは
松竹をとりて一葉のちりたり
りるは松竹をとりて一葉のちりたり

親といふち〜ちを乙御殿までも
 咄〜某がらん〜の石のりら
 あまをゆけ〜るひあ〜おさたり
 えはあのをき見られ女のため〜東の方
 ふえたり〜ある高木でのち〜あえ
 の某奥中受〜りかれ〜歌
 めも石のりわ今いすりや〜た衆命
 ハ石と其流〜るを〜し〜死骸とれ

あまーがやれーなりしむぐりる
強^{たう}らのさゆふ財^{さい}えれーとちりぬ^な
もくならずさる^さや^や豪^{たう}きとん
そおゆ^{やじ}と能^{なん}えづの女^めは
り今大い^{ひら}ふ事^{こと}——いふ^い要^{よう}は
石の下に連入^{れん}するものありまし
か例^{たと}あるのみす、知^しれずほせ^よを
が例^{たと}あるのみす、いふ^いなり

せんしき屋が宅あり泉の對面
 ありあけの松の産地あり
 泉知はるおとろふたふとる感
 んはる仕度の中もあつた人
 が成る中推定するところある
 泉の八咫の神のあつた泉の
 探りしところありありあり
 幸ハ丹後ありはる泉の神のあつた

[illegible]

